



2部昇格を決め喜びを爆発させる選手たち（野村彩乃撮影）



原監督を胸上げる選手たち（今井和樹撮影）

東 都大学野球2・3部入れ替え戦が11月10、11日の両日、東京・明治神宮野球場で行われた。3部優勝の本学は2部最下位の国士舘大と対戦、1回戦を3-1、2回戦を4-0で連勝し、初の2部昇格を決めた（入れ替え戦詳細は2面）。2部への挑戦は3度目。いずれも相手は国士舘大だったが、ついに2部の壁を越えた。2部昇格は、2022年に本学が東都大学野球連盟に加盟して以来の悲願だった。試合後、原克隆監督は、「率直に言ってしまう。学生たちの勝ちたいという思いが相手より強かったことが勝因。次は、2部優勝を目指す」と来季への意気込みを語った。

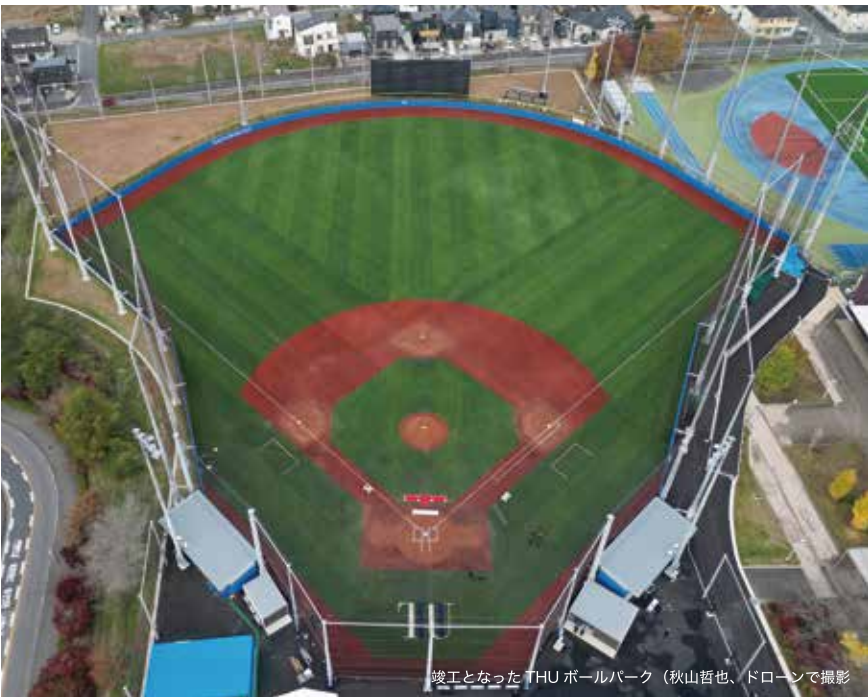
来季2部リーグの顔ぶれ

駒澤大
専修大
日本大
東京農大
拓殖大
帝京平成大

連盟内交流戦で、1部リーグの中央大と対戦し、7-6で勝利した。今回の交流戦で格上の大学に勝利したのは本学だけ。勢いに乗った本学は、9月2日にリーグ戦が開幕すると、第1週対成蹊大戦に連勝。その後も勝ち点を積み上げ、最終戦績を10勝2敗、勝ち点5として、昨年秋季以来3度目の3部リーグ優勝を決めた。

入れ替え戦終了後、チームを率いてきた井田駿吾共同主将（健康医療スポーツ学部3年）は、「これまで3年間の努力が実を結んだ。これからさらに鍛錬を重ね、次なる高みを目指す」と力を込めた。

新たな練習拠点完成



竣工となった THU ボールパーク（秋山哲也、ドローンで撮影

東 都大学野球リーグで 2 部昇格を決めた本学硬式野球部の新たな練習拠点となるグラウンド「THU Ball Park」が千葉県市原市の千葉キャンパスに完成した。11 月 16 日に竣工式が行われ、大学や地元自治体、連盟、施工企業など関係者約 80 人が出席して完成を祝った。（写真は、ドローンによるグラウンド全景。秋山哲也撮影）

外野やマウンド周辺、ホーム周辺には、マイクロプラスチック流出抑制機能もある高性能人工芝が敷かれた。防球ネットは最大 30 m。MLB の大谷選手がかつ飛ばしても、ネットの内側に落ちる」と球場の説明に当たった原克隆監督は安全性を力説した。風速が 18 m/s になると自動的に下りる仕組みで、強風対策も万全。夜間照明は、MLB の球場でも導入されている近隣住民に迷惑にならない最新鋭の器具を取り入れた。さらに、上空を照らす照明も備



テープカットする沖永寛子学長（右から 3 大目）ら。（秋山哲也撮影）

え付けられ、夜間練習にも配慮した設計だ。一塁側、三塁側の 2 か所には、投手が一塁側 4 人、三塁側 3 人が練習できるブルペンも設置。ネットで仕切れば、打撃練習もできる。着工は 2023 年 9 月下旬で、今年 9 月 30 日に完成。部員は足早く 10 月から練習に使用しており、秋の 3 部リーグで見事に優勝、入れ替え戦にも快勝している。

竣工式に続く祝賀会で学生を代表してあいさつに立った井田駿吾共同主将は、「これ以上ない練習環境を準備してくださった。今度はわれわれの番。2 部優勝、1 部昇格を目指して鍛錬していく」と決意を語った。



1 回戦で好投した三輪投手（塚田理央撮影）



2 回戦に先発した亀田投手（今井和樹撮影）



2 回戦で 2 番手をつとめた武田投手（今井和樹撮影）

1 回戦 3-1（11 月 10 日）

1 点を追う 3 回裏、7 番渡部が二塁への内野安打で出塁、9 番西が犠打で送り、2 死二塁とすると、1 番伊東（洸）の中越え二塁打で 1 点を返し同点。6 回裏には、2 番前本の右越え三塁打、4 番木戸脇の左前打で 1 点追加。8 回裏にも 1 死三塁から 5 番小原（翔）が一塁前にスクイズを決め、

2 回戦 4-0（11 月 11 日）

スコアボードに「0」が並び息詰まる試合展開だったが、本学は 7 回表、2 死から三塁への内野安打で出塁した 7 番渡部が盗塁、8 番井田の打球を三塁手が一塁へ悪送球する間に渡部が生還し 1 点先制。さらに、

9 番西が四球で出塁、わずか二塁の井田が三塁への盗塁を決めて 2 死一・三塁とすると、1 番伊東（洸）が左中間のラバーフェンス上段を直撃する二塁打を放ち 2 点を追加。9 回表には、1 死二塁から 1 番伊東の右越え三塁打で 1 点を加え、ダメ押しした。

投げては、先発の亀田、リリーフの武田が相手打線を散発 4 安打に抑える完封リレーを演じた。

1 回戦	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
国士舘大	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	6	0
帝京平成大	0	0	1	0	0	1	0	1	x	3	8	0

（投手）三輪（三塁打）前本（二塁打）伊東(洸)

2 回戦	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
帝京平成大	0	0	0	0	0	0	3	0	1	4	8	2
国士舘大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2

（投手）亀田 武田（三塁打）伊東(洸)（二塁打）前本、伊東(洸)

3 部リーグ 個人表彰

[] 内は選出回数

最高殊勲選手賞：伊東洸佑【初】

最優秀投手賞：三輪圭肇【初】

ベストナイン

投手：比江島幹（学習院大）【2】

捕手：井田駿吾（帝京平成大）【初】

：衛藤航太郎（順天堂大）【2】

一塁手：三塚武造（帝京平成大）【初】

二塁手：神谷樹生（学習院大）【2】

三塁手：伊東洸佑（帝京平成大）【2】

遊撃手：中島英作（大正大）【初】

外野手：押木春海（上智大）【初】

熊谷和哉（帝京平成大）【初】

原田知輝（学習院大）【初】

指名打者：齋藤紘（帝京平成大）【初】

打撃トップ 10

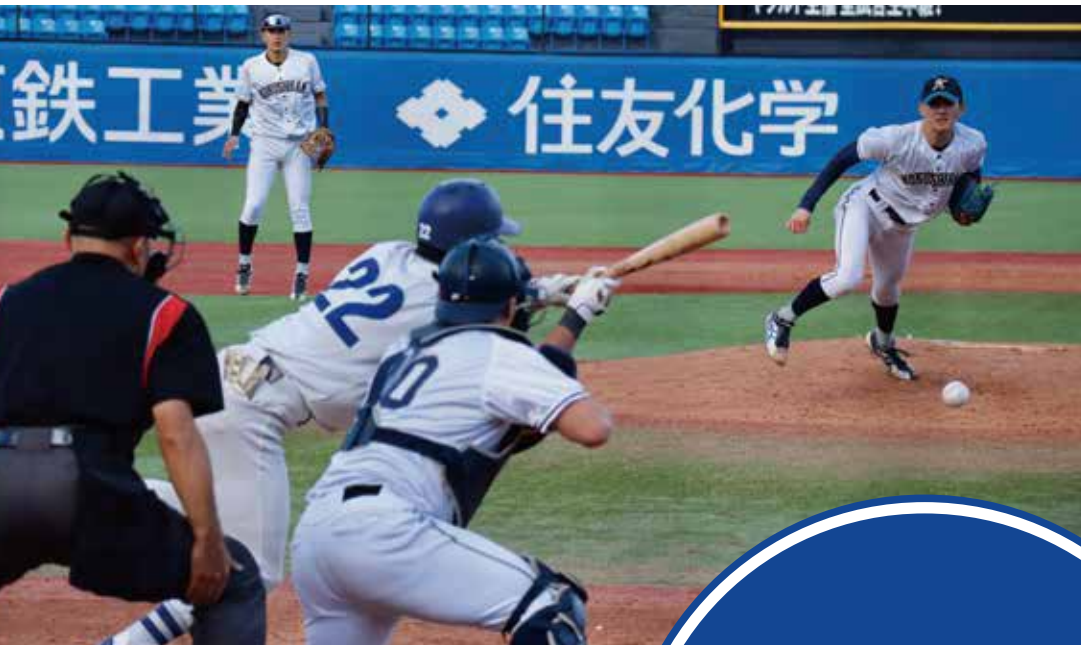
順位	選手名	大学	打数	安打	本塁打	打点	打率
1	原田	学習院大	35	16	1	10	.457
2	押木	上智大	51	22	0	10	.431
3	熊谷	帝京平成大	40	16	0	8	.400
4	伊東（洸）	帝京平成大	43	17	0	8	.395
5	田村	上智大	50	19	0	8	.380
6	田中（慎）	大正大	45	17	0	6	.378
6	神谷	学習院大	37	14	1	4	.378
8	衛藤	順天堂大	40	15	0	6	.375
9	三塚	帝京平成大	51	18	0	6	.353
10	佐々木（虹）	大正大	43	15	1	12	.349

東都大学野球秋季リーグ入れ替え戦結果

1・2 部	駒澤大（1 部 6 位）0 勝降格	X	立正大（2 部 1 位）2 勝昇格
2・3 部	国士舘大（2 部 6 位）0 勝降格	X	帝京平成大（3 部 1 位）2 勝昇格
3・4 部	順天堂大（3 部 6 位）0 勝降格	X	一橋大（4 部 1 位）2 勝昇格

東都大学野球 3 部リーグ 最終戦績

順位	大学	帝平	大正	成蹊	上智	学習院	順天堂	勝	負	分	勝率	勝点
1	帝京平成大	—	○●○	○○	●○○	○○	○○	10	2	0	.833	5
2	大正大	●○●	—	○●●	○○	○○	○○	8	4	0	.667	3
3	成蹊大	●●	●○○	—	●●	○○	○●○	6	6	0	.500	3
4	上智大	○●●	●●	○○	—	●●	○●○	5	7	0	.417	2
5	学習院大	●●	●●	●●	○○	—	○○	4	6	0	.400	2
6	順天堂大	●●	●●	●○●	●○●	●●	—	2	10	0	.167	0



入れ替え戦 1 回戦 8 回裏、スクイズを決める小原（野村彩乃撮影）



大正大戦 2 回戦で、7 回と 3 分の 1 を好投した三輪投手（野村彩乃撮影）

写真特集

写真で見る野球部今シーズンの躍動



学習院大戦 2 回戦で打席に立つ伊東（野村彩乃撮影）



大正大戦 2 回戦 2 回裏、生還する熊谷（左）。（野村彩乃撮影）



入れ替え戦 1 回戦 3 回裏、中越え二塁打を放つ伊東（塚田理央撮影）



入れ替え戦 1 回戦 6 回裏、勝ち越しの左前安打を放つ木戸脇（塚田理央撮影）



3 部リーグ表彰式で優勝旗を受ける井田共同主将（硬式野球部提供）

強化部報告

女子サッカー

関東大学女子リーグ 1 部 9 位でインカレ出場権逃す
第 39 回関東大学女子サッカーリーグ 1 部。本学は前・後期通算戦績 10 勝 9 敗 3 分で 9 位に終わり、上位 8 チームに与えられる年末年始の全日本大学選手権への出場権を逃した。1 部は、本学のほか東洋大、日本大、山梨学院大、神奈川大、十文字学園女子大、東京国際大、筑波大、早稲

田大、日本体育大、東海大、大東亜文化大の計 12 校で構成。

男子サッカー

千葉県大学サッカーリーグ 1 部。本学は、戦績 7 勝 3 敗 4 分けて 3 位だった。本学は、昨年の千葉県県大学サッカーリーグ 2 部で優勝し、1 部復帰を果たしている。1 部は城西国際大、千葉商科大、淑徳大、千葉大、江戸川大、明海大、神田外国語大の計 8 チームで構成。

男子バスケットボール

第 101 回関東大学バスケットボールリーグ戦 3 部。本

学は、最終戦績 12 勝 10 敗で、3 部 12 校のうち 6 位だった。同リーグ戦は、2 回戦総当たり戦で順位を競った。

チアダンス

チアダンス部は 8 月に「USA チアリーディング・ダンス学生選手権」、10 月に「JCDA チアダンス選手権」と、国内主要大会に出場した。9 月には、地域連携活動として、中野区の認知症啓蒙イベント「RUN 伴+中野 2025」に参加したほか、硬式野球部の入れ替え戦応援、学園祭、千葉キャンパス・THU BALL PARK 竣工祝賀式など学内イベントでパフォーマンスを披露した。

全日本学生柔道体重別個人男子で吉田菊地が表彰台



男子 60 キロ級 1 回戦、内股で一本を取る吉田（今井和樹撮影）



男子 90 キロ級準々決勝で果敢に攻める菊地＝白（大山航平撮影）



男子 90 キロ級準々決勝で勝利し会場を後にする菊地（大山航平撮影）



男子 60 キロ級準々決勝に勝利した吉田（秋山哲也撮影）

体

重別個人の大学王者を決める2025年度全日本学生体重別選手権（男子44回、女子41回）が9月27、28日の両日、東京九段下の日本武道館で開かれた。本学からは、男子60キロ級に吉田壮汰（健康医療スポーツ学部1年）が、同90キロ級に菊地鷹（同学部3年）が、出場。それぞれ準決勝に進出、決勝は逃したものの堂々3位に輝いた。（写真は、1回戦、内股で相手選手を投げる吉田＝白。今井和樹撮影）

1日目の60キロ級には51選手が出場。本学の吉田は、1回戦1分51秒、内股で一本勝ちすると、2回戦では内股と袈裟固の合わせ技で勝利。3回戦では相手への指導3で反則勝ち、準々決勝では強豪校・京都産業大の選手に対して、2分3秒に腕ひしぎ十字固めで一本勝ちした。準決勝では、優勝した天理大の横井蓮選手相手に健闘したが、残り29秒、一本背負いで有効を取られ、涙を飲んだ。2日目の90キロ級には50選手が出場。菊地は2回戦から登場、大内刈りで

有効を取ると隅落の技ありで勝利。3回戦では、強豪校近畿大の選手を相手に裏投げで一本勝ち、準々決勝では、天理大の選手に対して大外刈りの技ありで勝利した。準決勝では優勝した天理大・山村洸斗選手に開始50秒で送襟締を決められ敗れた。今大会には、本学からは2人のほか、女子52キロ級山中柚稀（同学部3年）、同63キロ級山崎陽菜理（同学部2年）、同78キロ級白阪光（同学部2年）の3人が出場。1日目に登場した白阪は1戦を

延長の末相手への指導3で反則勝ちしたが、2回戦で敗退。山中、山崎の2選手は初戦で敗退した。全日本学生体重別団体、講道館杯はふるわず

体重別7人の団体戦で大学王者を決める全日本学生柔道体重別団体優勝大会（10月18、19日、兵庫県尼崎市のベイコム総合体育館）では、本学は男女ともに2回戦で敗退した。男子は1回戦、京都産業大を相手に4-1で勝

利、2回戦は國學院大に1-2で敗れた。女子は1回戦、天理大に3-2で勝利したが、2回戦で帝京大に1-5で敗れた。

体重別の日本王者を決める講道館杯全日本柔道体重別選手権大会（11月1、2日、千葉ポートアリーナ）では、本学からは、男子60キロ級に吉田、90キロ級に菊地、女子78キロ級に白坂の3人が出場したが、吉田が3回戦、菊地が2回戦、白坂が1回戦で、それぞれ敗退した。

編集後記

帝京平成スポーツジャーナル第11号をお届けします。

本号のニュースは、何とんでも硬式野球部の2部昇格です。2022年初めに東都大学野球連盟に加盟して以来、3年越しの悲願が達成されました。国士舘大学との入れ替え戦は3度目でしたが、得点を許したのは1回戦の1点だけ。1回戦を完投した三輪、2回戦を完封リレーした亀田、武田の投手三枚看板、3部リーグ秋季最高殊勲選手に選出された1番伊東（洸）らを中心とした打撃陣が躍動し、堂々たる戦いぶりで2部への扉をこじ開けました。大学野球の世界では、「人気の六大学、実力の東都」といわれます。東都は「戦国東都」とも称され、今回の入れ替え戦では、1部から4部まで入れ替えとなるなど、実力が伯仲したチームがしのぎを削っている状態です。

次の目標は、「2部優勝、1部昇格」です。練習拠点のある千葉キャンパスには最先端の設備を備えた新グラウンドが完成しています。次なる高みに向けて、練習環境は万全です。来季の躍動に期待が高まります。